2026.10.8

尼崎市総合計画審議会
第６回総会

資料第１号

後期計画策定に向けた検討状況について

尼崎市　都市政策課

本日の趣旨

- これまで、分科会での各論ページの議論と並行して、
  「後期計画全体の方向性を示す部分」について
  庁内会議等で検討をすすめ、「後期計画のたたき台」を作成した。

- 本日は、
  - **計画の冒頭部分「はじめに」**（社会の変化・まちの変化・まちづくりの方向性）**に記載する内容**
  - **最上位指標「総合指標」の検討経過**
  - **施策を横断して大切にする考え方「主要取組項目」**

  について共有し、「**後期計画のたたき台**」についてご意見をいただきたい。

- あわせて、**その他の計画全体をとおした記載内容についても**
  ご確認・ご意見をいただきたい。

今後のスケジュール

スケジュール	会議体	主な内容
10/5～7	総合計画審議会・分科会	アウトカム指標を含む、**各論ページ全体の議論**
10/8	**総合計画審議会・総会**	**総合指標（案）・主要取組項目（案）、後期計画たたき台の確認**
10/21	第4回ひと咲き会議（庁内）	総合指標や各論ページを含む、後期計画の素案（たたき台）について意見交換
11/9	**総合計画審議会・総会**	**後期計画の素案について意見交換**
11/17 or 24	第5回ひと咲き会議（庁内）	パブコメ前の素案確認
12月	市議会・総務委員協議会	パブコメ前の素案報告（議会報告後、12月～１月にパブコメ実施予定）
2月	市議会・総務委員協議会	パブコメ結果の報告
3月	総合計画審議会・総会	パブコメ結果の報告

- **今後、１０月・１１月のひと咲き会議で報告したのち、１２月議会・総務委員協議会にて後期計画・素案を報告し、１２月～１月にパブコメを実施予定**
- **令和９年４月に審議会より答申、令和９年６月に議案の提出を予定**

第６次総合計画･後期計画の骨子（案）

第６次総合計画・後期計画（2028－）目次案

議決対象

■はじめに

１後期計画の考え方（たたき台で反映）
２後期計画の構成と期間（たたき台で反映）
３社会潮流
４本市の状況と近年のまちの変化
５今後のまちづくりの方向性

■まちづくり基本計画

１まちづくりの推進に向けて（たたき台で反映）
２まちづくりの総合指標
３施策体系　（5月総会で報告済）
４施策別の取組（各論）　（分科会で議論）
５行政運営　（分科会で議論）
６主要取組項目（名称変更を検討）

■資料編

・まちづくり構想　他、関連資料

分科会での各論ページ議論と並行して、
これまで庁内会議にて赤字部分の内容について
議論・検討をすすめてきた。

・社会潮流
・本市の状況
・まちづくりの方向性
・まちづくりの総合指標
・主要取組項目

上記の内容と、各論ページ（検討中）とまとめて、
「後期計画のたたき台」を作成
たたき台の記載内容について、意見交換

タイムテーブル

（次第）

1．計画全体の方向性に関する意見交換・・・・18:30～19：50
　①「はじめに」について（40分）
　②「総合指標」「主要取組項目」について（40分）

2．計画全体について意見交換・・・・・・・・19:50～20:20

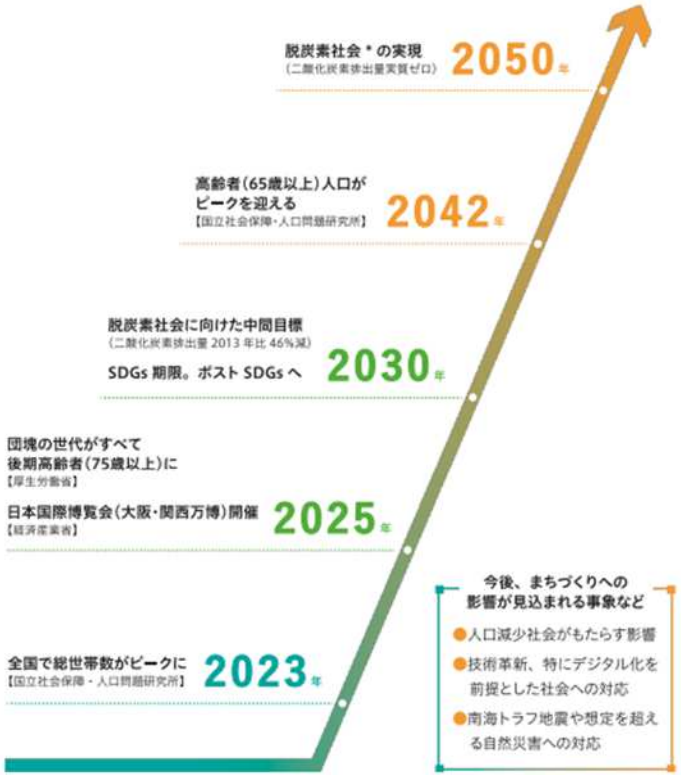
「はじめに」に盛り込む内容
（たたき台P.5-14）

・前期計画策定以降の社会潮流の変化
・本市の状況と近年のまちの変化
・今後のまちづくりの方向性

現行計画の社会潮流のページ

1 社会潮流

少子化・高齢化、グローバル化、デジタル化など、社会の変化が激しい現代においては、わたしたちの生活やニーズも多様化しており、まちづくりに取り組むに当たっては、変化に柔軟に対応することが求められます。ここでは、そのまちづくりの羅針盤となる本計画の策定に当たり、社会潮流の変化を計画の背景としてまとめています。



(1) 人口減少社会の進行

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（令和元年改訂版）では、我が国の人口は平成 20 年（2008 年）をピークに減少局面に入っており、平均寿命が高い水準にあるなか、出生率の低下によって引き起こされる人口減少は、必然的に高齢化を伴うこととなり、高齢化率＊もさらに上昇する見通しとなっています。

令和 7 年（2025 年）にはいわゆる団塊の世代が全員 75 歳以上（後期高齢者）に、令和 22 年（2040 年）にはその団塊ジュニア世代が全員 65 歳以上となり、また、令和 24 年（2042 年）には高齢者人口がピークに達することが見込まれています。こういった状況から、社会保障費の増大や、いわゆる生産年齢人口（15 ～ 64 歳）の減少により、医療・介護サービスの提供など、さまざまな面で影響が懸念されます。

一方で、日本における外国籍住民は、令和 2 年（2020 年）は新型コロナウイルス感染症の影響などから減少したものの、近年、増加傾向にあり、多文化共生＊社会に向けた意識の醸成や環境整備が求められています。

尼崎市でも

少子化・高齢化に伴う人口減少や、外国籍住民の増加という大きな流れは同様ですが、とりわけ単身高齢者人口が多いといった特徴があります。こうした社会構造の変化への柔軟な対応が重要です。

■我が国の人口の推移と長期的な見通し



（資料）まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）をもとに本市で作成

（注1）国立社会保障・人口問題研究所（社人研）「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」出生中位（死亡中位）

（注2）「合計特殊出生率が上昇した場合」は、2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07 程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

（注3）実績（2018 年までの人口）は、総務省「国勢調査」等による（各年 10 月 1 日現在の人口）。2115 ～ 2160 年の点線は社人研の 2110 年までの設定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。

後期計画の社会潮流の骨子案　（たたき台　P.７－１０）

＜現行計画の社会潮流＞

- ⑴　人口減少社会の進行
- ⑵　多様化するコミュニティの形態と地域におけるつながりの希薄化
- ⑶　脱炭素社会の実現に向けた機運の高まり
- ⑷　デジタル化の進展
- ⑸　産業構造・労働環境の変化
- ⑹　災害対策など安全・安心への意識の高まり
- ⑺　新型コロナウイルス感染症がもたらした新たな日常

現計画の点検で得られた視点

＜前期計画策定以降の社会潮流の主な変化＞

⑴　**方向性は同じ**
少子・高齢化に伴う人口減少や外国籍住民の増加

⑵　**外国籍住民や多様なマイノリティへの理解促進と共生社会づくりの必要性**

⑶　**ＧＸやネイチャーポジティブなどの新たな概念の浸透**　※脱炭素をめざす経済社会システム全体の変革
※自然損失を止め、反転させて回復させる

⑷　**生成ＡＩの普及をはじめとするデジタル化の進展とそれに伴う社会課題の顕在化**
（フェイクニュース、犯罪の多様化、
SNS等での社会の分断、対話の場の減少等）

⑸　**物価高騰による市民生活や事業活動への影響、労働力不足の顕在化**

計画冒頭の「社会潮流の変化」で整理

⑹⑺**方向性は同じ**
近年の災害の教訓を踏まえた取組の継続

本市の状況の骨子　（たたき台　P.11－13）

◎「本市の状況」に盛り込む項目

⑴ 人口動態の変化

⑵ 将来人口推計

⑶ ファミリー世帯向けアンケート調査結果

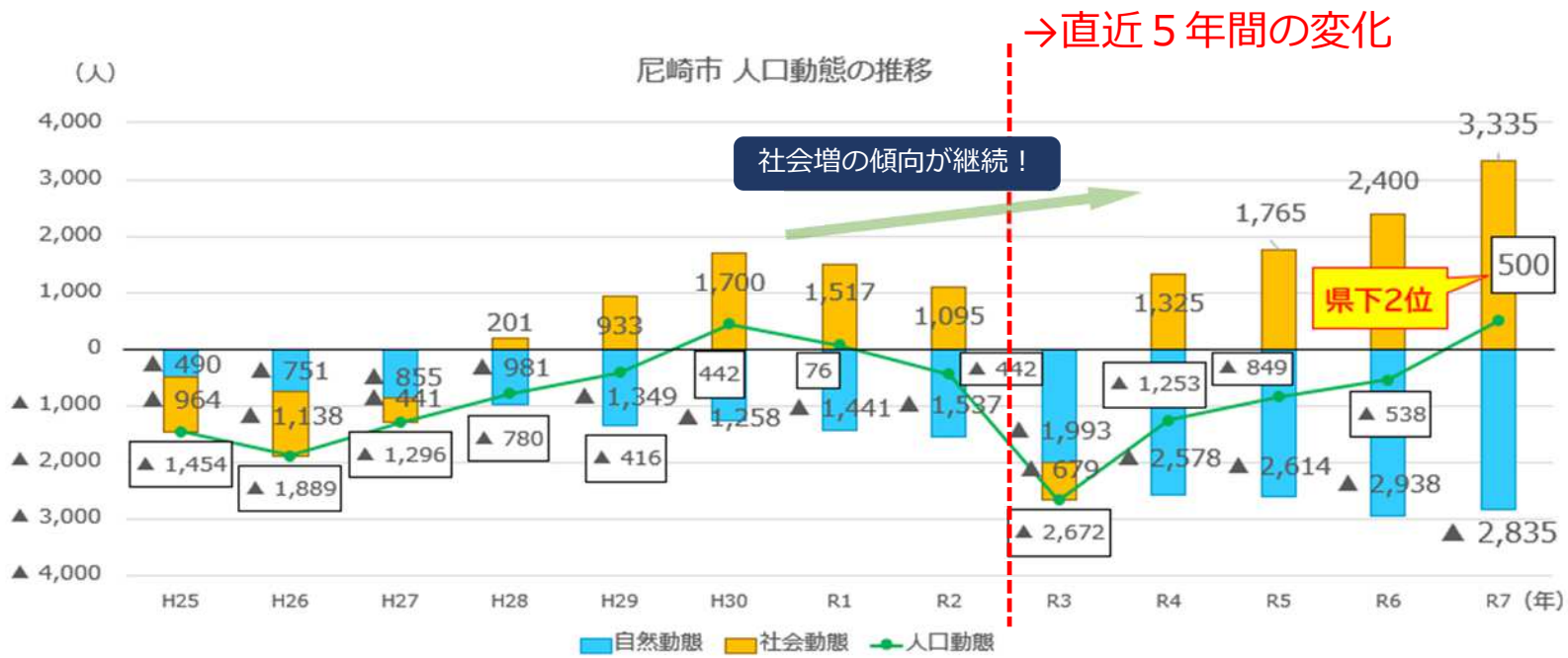
⑷ 行財政運営上の変化

⑸ 市民意識調査からみられる「まちの変化」

⑹ ハード整備からみられる「まちの変化」

⑴人口動態の変化　（たたき台　P.１１）

人口動態（平成25年～令和７年）



- コロナ禍の影響を除き、Ｈ２８年から社会増の傾向が継続。Ｒ４以降は**社会増の増加幅が年々拡大**
- 単身・二人世帯を中心とした大幅な社会増、**Ｒ７年度は自然減を上回り、人口増に転じる**

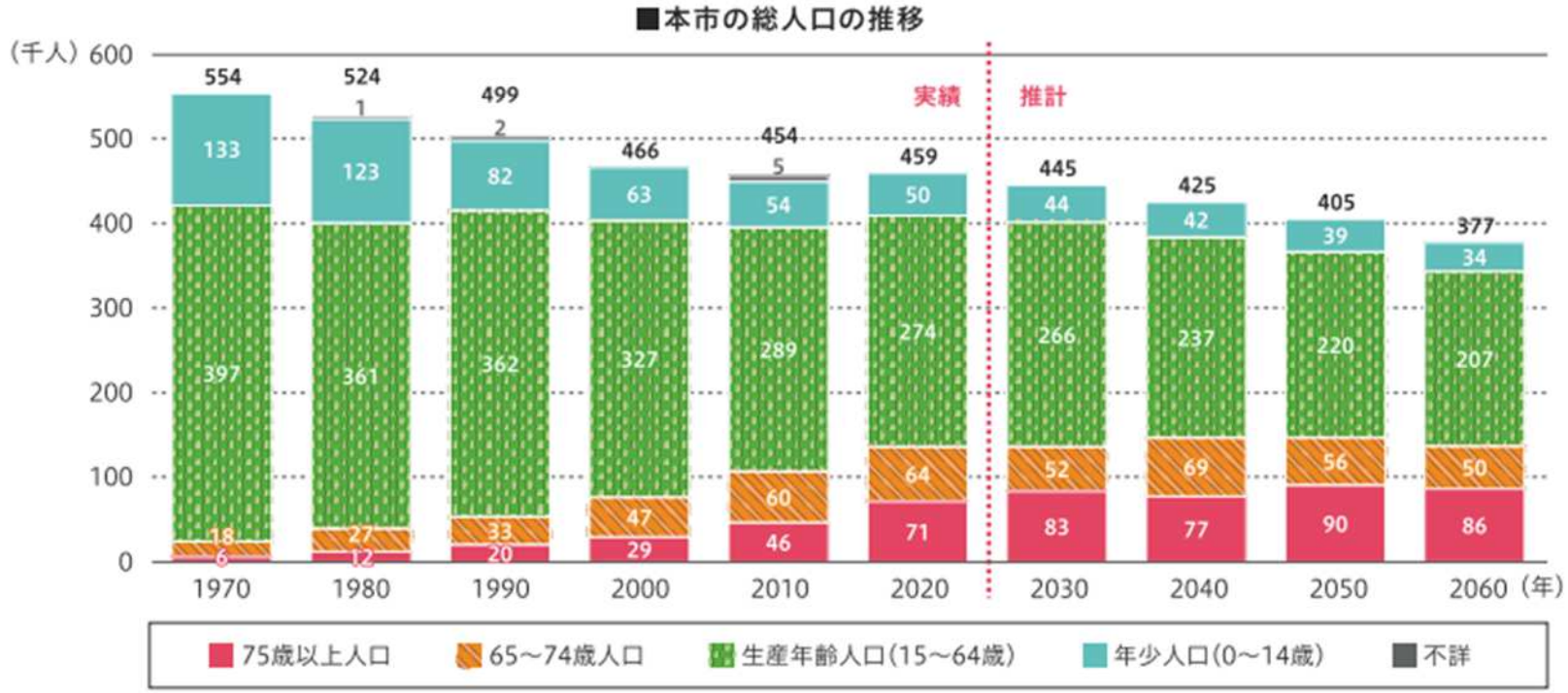
- 前期計画策定以降の人口動態からみられる「まちの変化」について、計画冒頭に記載

⑵将来人口推計　（たたき台　P.１１）

➢ 将来人口推計（グラフを最新版にアップデート）

◆自然減の拡大により見込まれる人口減少の進行

しかしながら、少子化・高齢化に伴い、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が今後拡大していくことが見込まれ、全国的な傾向と同様、本市においても人口減少がさらに進むことが見込まれます。



（資料）国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとに本市で作成

⑶ ファミリー世帯向けアンケート結果（たたき台　P.１２）

ファミリー世帯の居住地選択において

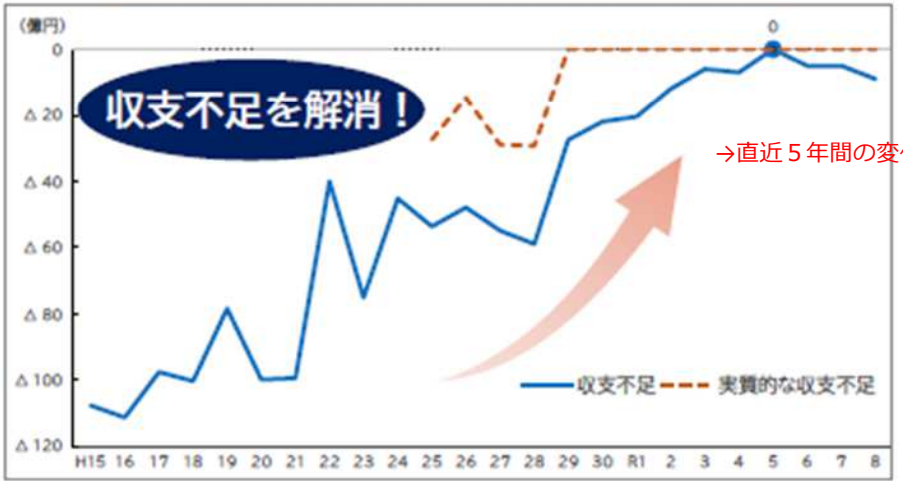
- **重視する項目として、「立地・アクセス」「住居（価格・広さ等）」「買物・飲食（利便性）」が上位**
- **希望する項目として、「子育て」「治安」「教育」が上位、引き続き取り組んでいく必要**
- **アクセスや生活利便性といった強みを土台としつつ、子育て・治安・教育といった付加価値を高めることが必要**

⑷ 行財政運営上の変化　（たたき台　P.１２）

（参考　財政状況など）

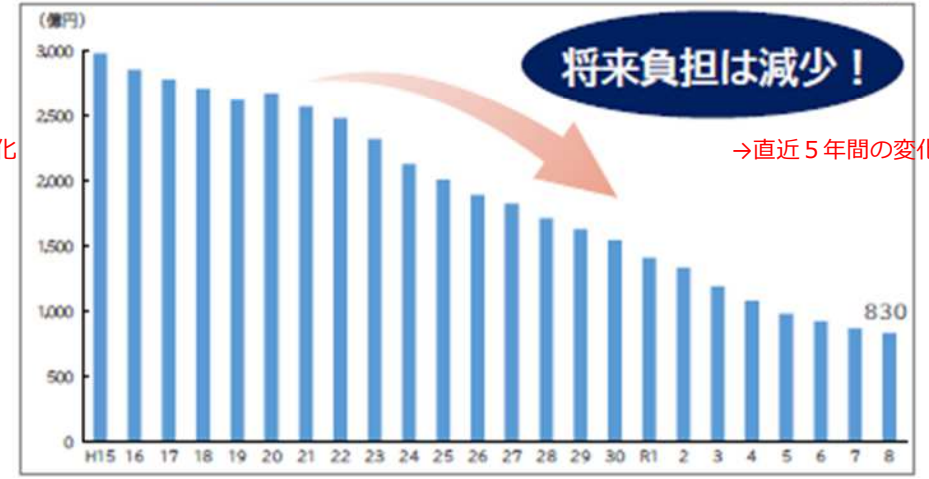
➢ 行財政改革を推し進めた結果、財政状況は着実に改善

当初予算編成時における収支不足額の推移



目標管理対象将来負担の推移

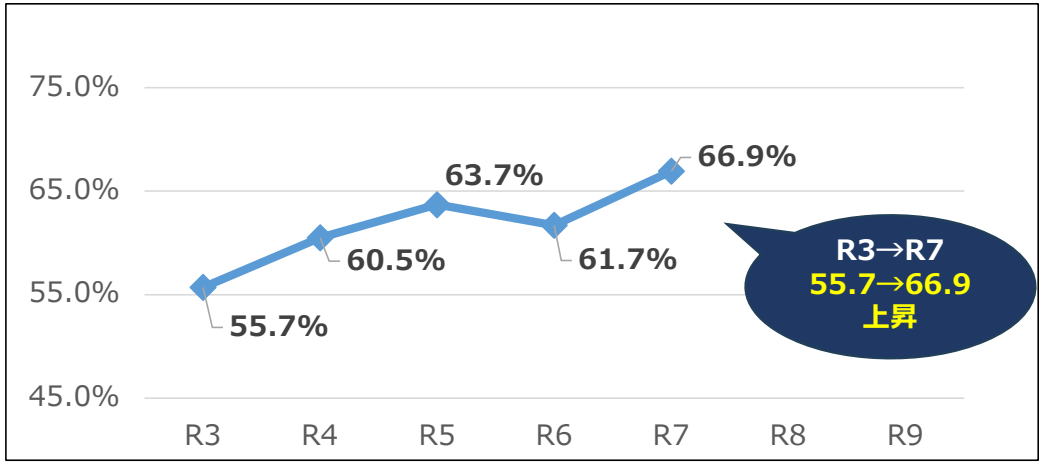
～R6:決算
R7～:見込み



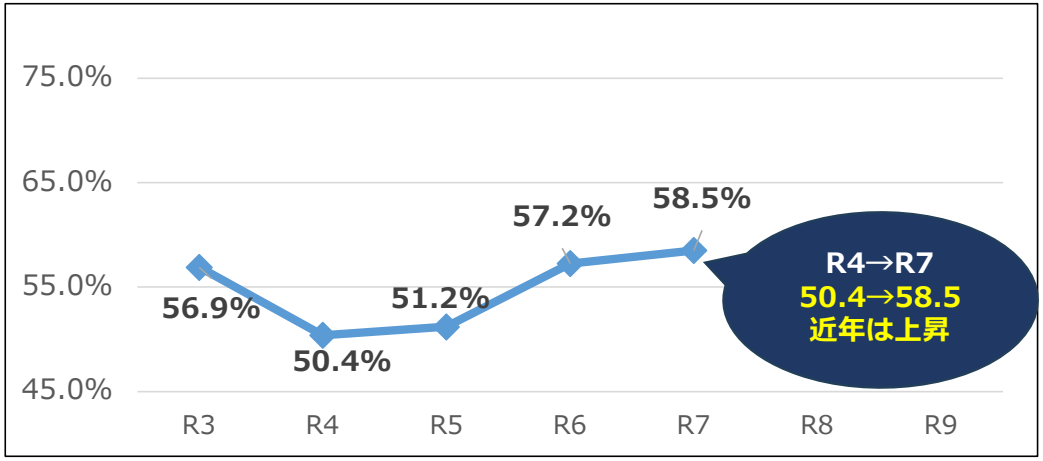
➢ 前期計画策定以降の財政基盤は着実に改善

⑸ 市民意識調査からみられる「まちの変化」　（たたき台　P.１２）

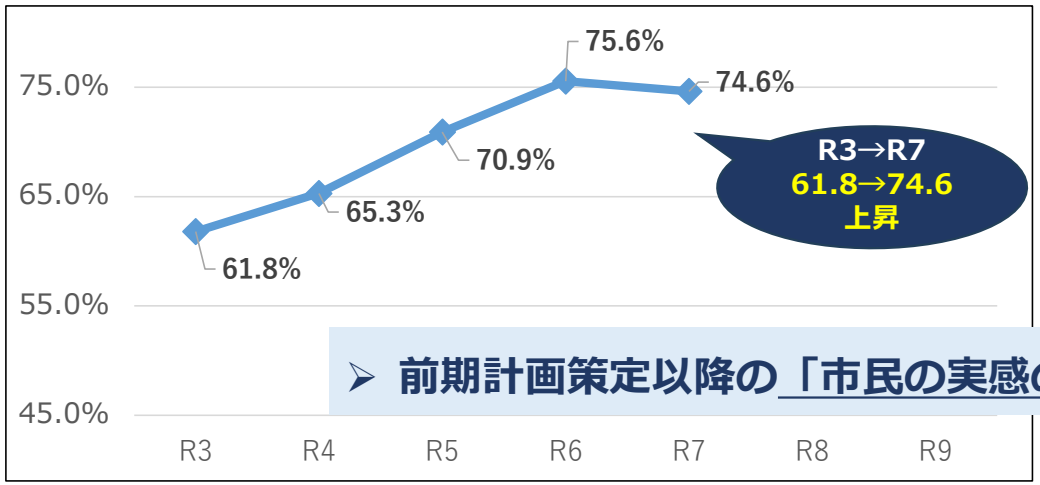
まちのイメージが良くなった



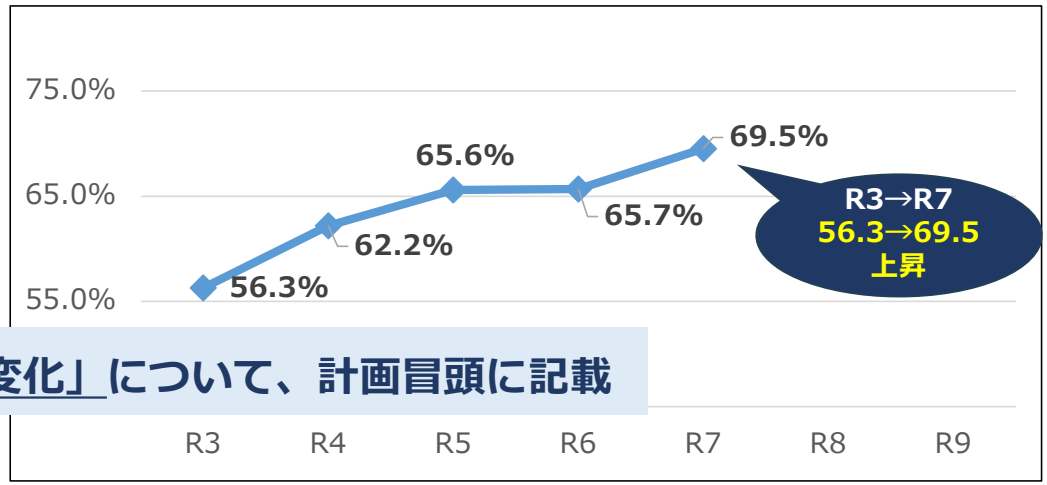
子育てをしやすいまち



安全で安心して暮らせるまち



ルール、マナーの面で以前よりも住みやすいまちになった



➢ 前期計画策定以降の「市民の実感の変化」について、計画冒頭に記載

⑹ハード整備からみられる「まちの変化」　（たたき台　P.１３）


休日夜間急病診療所


武庫健康ふれあい体育館



中央公園のリニューアル

今後のまちづくりに向けた整備



❶ 西武庫公園のリニューアル

令和13年度完成
❸ (仮称) 武庫川周辺阪急新駅の整備

令和12年度完成
❺ 新図書館などの整備

❼ 阪急塚口駅の駅前整備

令和12年度完成
❾ 総合老人福祉センターの移転建て替え

令和8年4月完成
⓬ 阪神大物駅周辺の整備

⓰ 元浜緑地の施設などの整備

令和14年度完成
⓭ 下坂部小学校の建て替え

令和8年4月1日開校
⓱ 尼崎琴葉中学校の新設

令和11年度完成
❿ 芦原公園のリニューアル

令和9年度完成
⓮ 東消防署の移転建て替え

令和11年度完成
⓲ 記念公園のリニューアル

令和8年度完成
❷ 農業公園のリニューアル

令和8年3月開通
❹ 園田西武庫線の整備

令和8年度完成
❻ 阪急園田駅の駅前整備

令和8年4月1日開設
❽ 児童相談所の新設

令和8年5月完成
⓫ 南の口公園のリニューアル

令和12年度完成
⓯ 西消防署の移転建て替え

⓳ 旧尼崎紡績本社事務所の整備

完成時期は予定であり、変更になる場合があります


児童相談所

ゼロカーボンベースボールパーク




大物公園のリニューアル

➢ 前期計画策定以降の<u>ハード整備を通じた「まちの変化」</u>について、計画冒頭に記載

まちづくりの方向性

５　今後のまちづくりの方向性（たたき台　Ｐ.１４）

➢ 後期計画におけるまちづくりの方向性

＜これまで＞

- 過去の財政難を背景とした、**減量型の行財政改革**
- ソフト・ハード面の**政策的な課題の克服**
- 治安や公害、学力が低いといった**過去からの負のイメージの払拭**

一方で近年は、

- 「まちのイメージ」は**６０%超えを維持**
- 「安全で安心に暮らせる」、「ルール・マナー」の指標は**大きく改善**
- 長きにわたる行財政改革の取組により、**市の財政基盤は着実に改善**
- Ｒ７は**人口増加**。特に**若年の単身・二人世帯に選ばれるまちに**
- **事業者からも選ばれるまちに**（土地の価格、都市部へのアクセス）

などポジティブな「まちの変化」がみられる

5　今後のまちづくりの方向性（たたき台　P.１４）

➢後期計画におけるまちづくりの方向性

<これから>

- **「豊かさを実感できるまちづくり」をめざす**
  - ✓ **これまでの課題克服の歴史を土台としながら、市民生活の豊かさをさらに追求した政策展開をめざす。**
  - ✓ 豊かさとは、物質的な充足だけでなく、健康、人とのつながり、いきがいなどを含め、自分らしく満足して暮らせる状態。

メインテーマ　**豊かさを実感できるまちづくり**

実現する手段（次ページ）　**①尼崎の強みを生かす**　**②新たな価値を生み出す**　**③豊かさを支える行政の仕組み**

５　今後のまちづくりの方向性（たたき台　Ｐ.１４）

➢ まちづくりの方向性を**実現するための手段**

① 尼崎の強みやポテンシャルを生かした戦略的なまちづくり

② 新たな価値が生まれる空間や場づくりなど
豊かさの実感につながるまちづくり

③ 豊かさを支える行政の仕組み

５　今後のまちづくりの方向性（たたき台　Ｐ.１４）

➢ まちづくりの方向性を**実現するための手段**

①尼崎の強みやポテンシャルを生かした戦略的なまちづくり

- ✓本市の強みである「都心級の利便性」と「土地の価格」のバランス（コスパの良さ）を**市民や産業界にも訴求**
- ✓**大阪との結びつきを最大限に生かし、市民だけでなく事業者にも選ばれるまちづくり**を
- ✓多様な人を受け入れてきた地域の「包容力」や、「人情深く、おせっかい」な特性、**人と人とのつながりをまちの強みとしていく**

５　今後のまちづくりの方向性（たたき台　Ｐ.１４）

➢まちづくりの方向性を実現するための手段

②　新たな価値が生まれる空間や場づくり

- ✓ ハード整備においては総量の圧縮（量の適正化）や予防保全（質の適正化）を目指してきた
- ✓ 市民生活に身近な公共空間の設備の不具合を速やかに解消し、**維持管理の質を高める**ことで、**暮らしの中で豊かさを実感できる**都市空間づくりをめざす
- ✓ 今後はこれに加えて、**新たな交流やつながりが生む「デザインや余白」の視点を取り入れ**、**市民が豊かさを実感できる都市空間**づくりをめざす
- ✓ 多様な人が関わる仕掛け・デザインによる**新たな価値が生まれるソフト面の場づくり**をめざす

５　今後のまちづくりの方向性（たたき台　Ｐ.１４）

➢ まちづくりの方向性を**実現するための手段**

③　豊かさを支える行政の仕組み

✓ 豊かさを実感できるまちづくりに向けて、職員の共通認識として**協働意識をもち、地域とともに豊かさを創り出していく。**

✓ 単なる業務効率化に留まらず、**市民生活を支えるＤＸを進め**、便利さを実感できるまちづくりをめざす

意見交換①（20分程度）（たたき台P.5-14）

ここまでご説明した内容

- **社会潮流**（前期計画策定以降の社会の変化）
- **本市の状況**（近年のまちの変化）
- **まちづくりの方向性**（後期計画の方向性）

について、たたき台の記載内容について

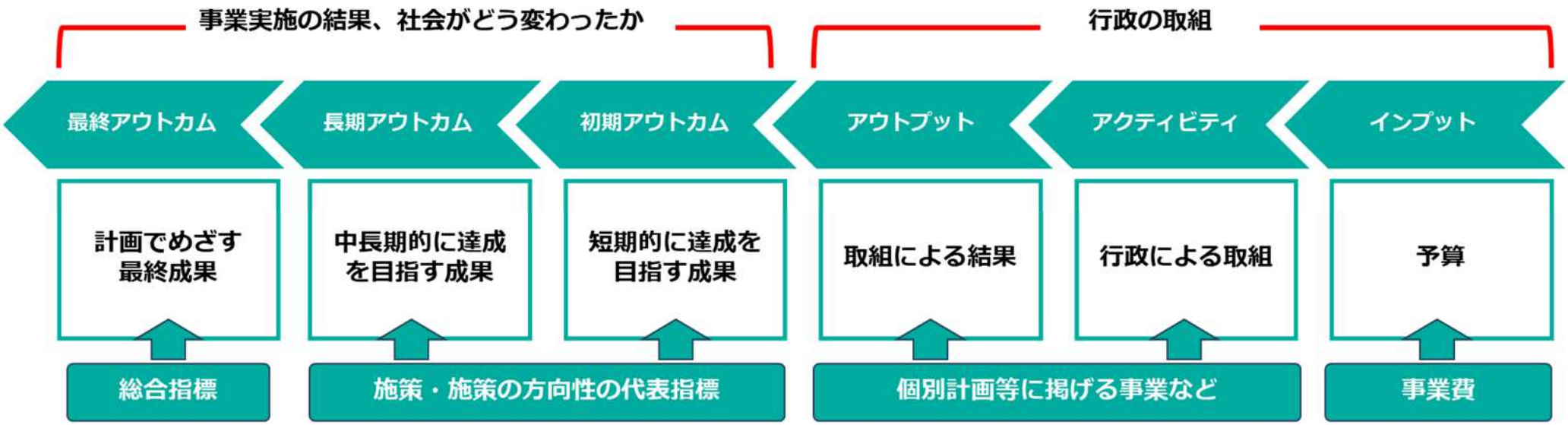
ご確認・ご意見をいただきたい

「まちづくりの総合指標」の検討

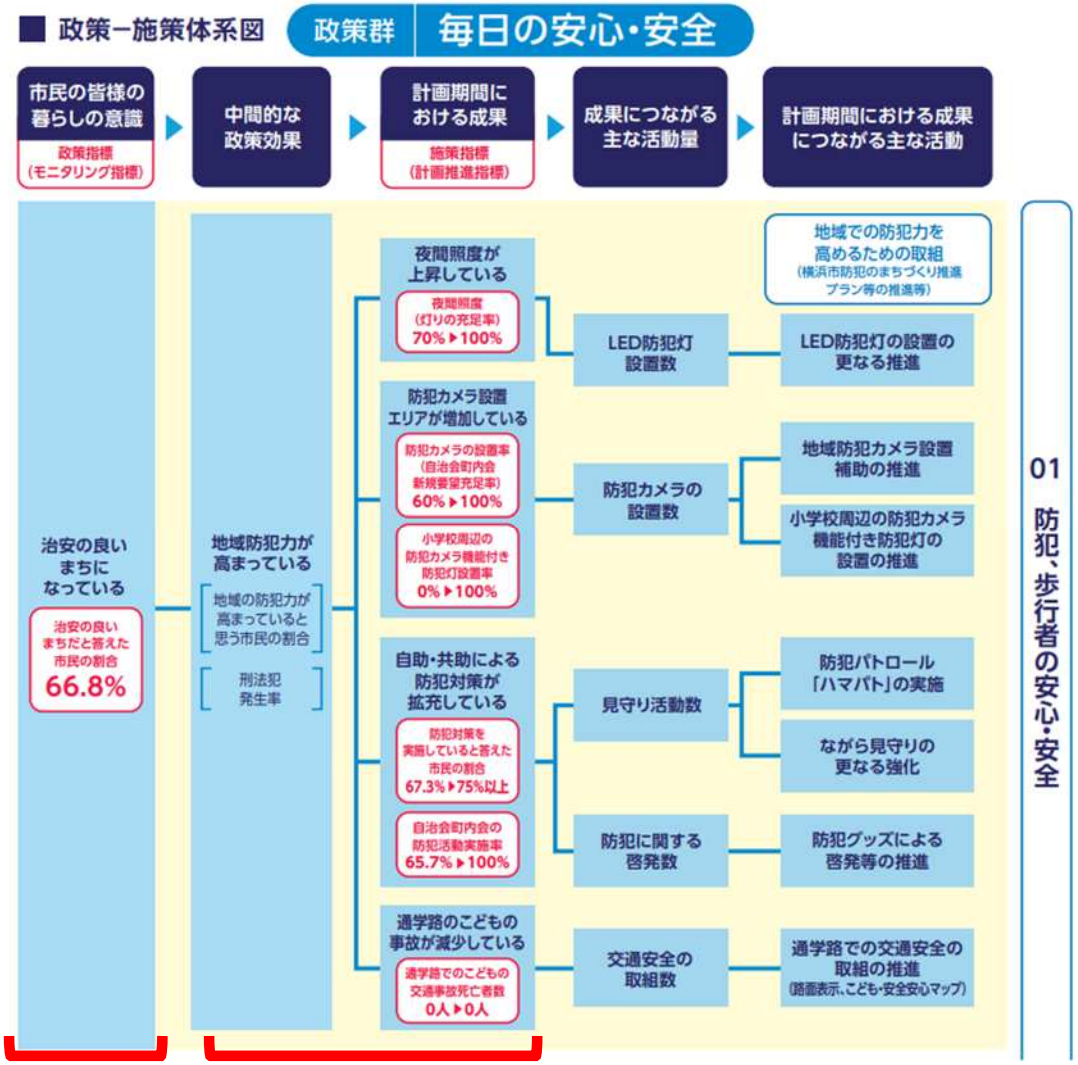
（たたき台　P.16-21）

ロジックモデルによる評価の充実　（たたき台　P.１６－１７）

○ロジックモデルによる評価手法の導入（後期計画の策定コンセプト）
後期計画では、施策の取組の成果が施策全体の成果につながり、さらに計画全体の成果につながる道筋を、ロジックモデルにより整理する。

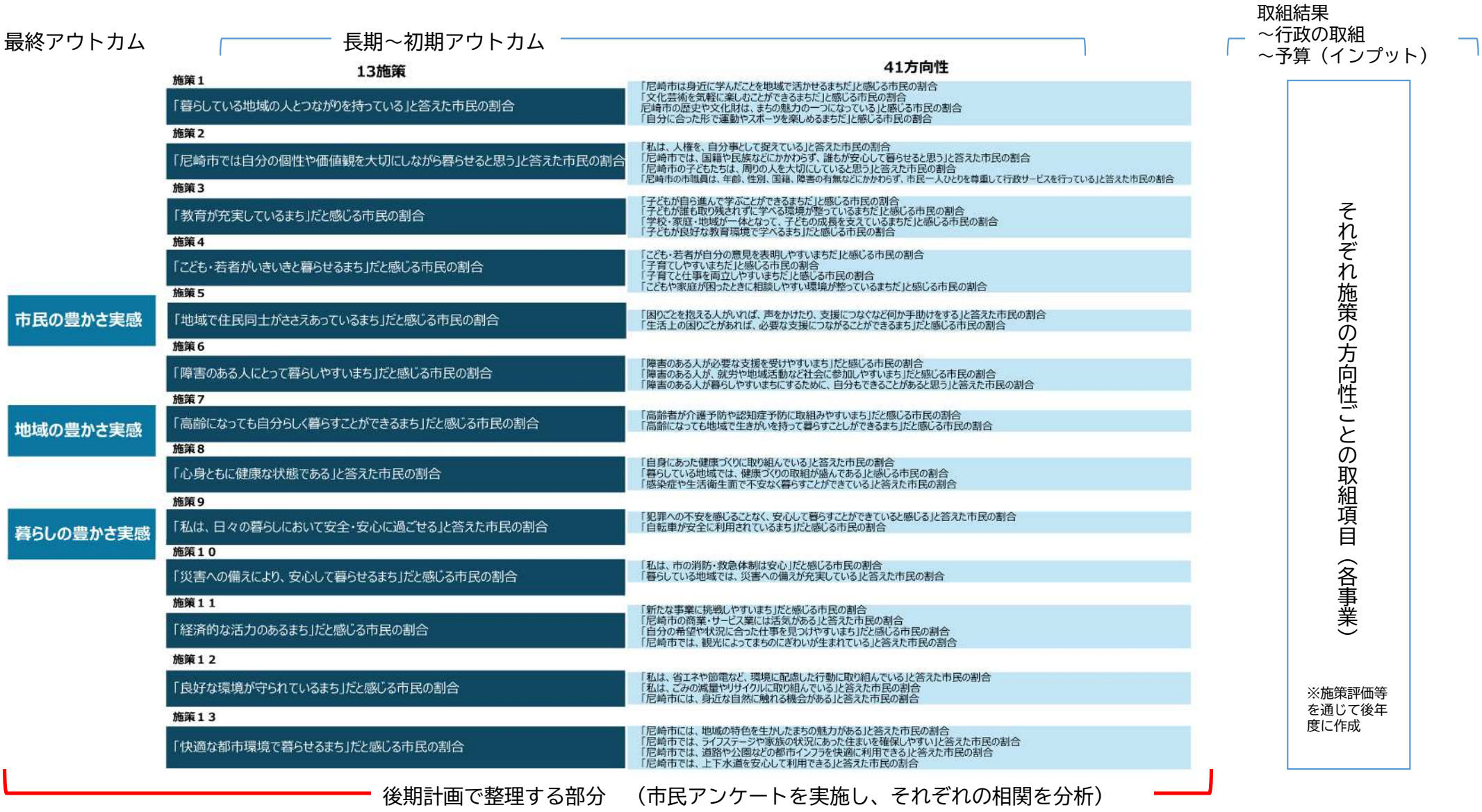


参考：ロジックモデルのイメージ（横浜市総合計画）



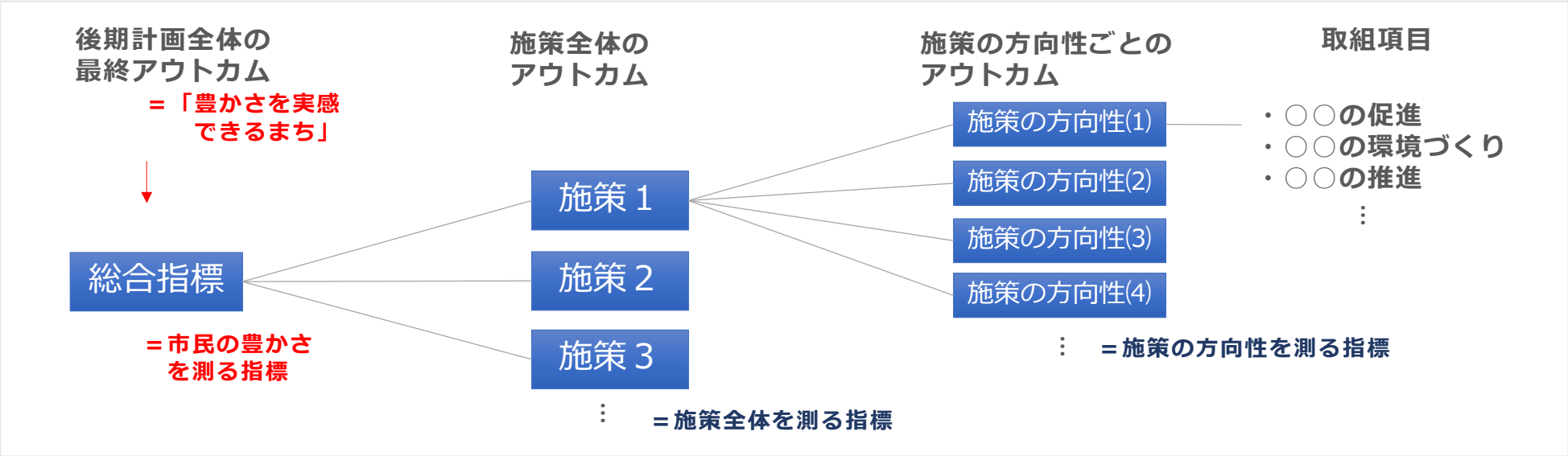
本市の場合→　施策の代表指標　施策の方向性ごとの代表指標・補完指標

ロジックモデル構築に向けたアウトカム指標一覧（たたき台　P.18-19）



ロジックモデルを踏まえた総合指標の検討　（たたき台　P.２０－２１）

これまでの議論を踏まえ、「豊かさを実感できるまち」を後期計画全体の最終アウトカムとし、
その達成状況を測るため、**「市民の豊かさ」を測る総合指標**を検討する。



→これにより、各施策の取組が、最終的に**「市民の豊かさ」**につながることを意識しながら、
政策立案や評価を行う仕組みの構築をめざす。

総合指標の見直し案　（たたき台　P.２０－２１）

「市民の豊かさ」を測る総合指標として、以下の３つを検討する。
「豊かさ」は、物質的な充足だけでなく、いきがいなどを含む多面的な概念であり、単一の指標では把握しきれないため、「個人」「地域」「生活」の3つの側面から捉え、それぞれに対応する指標を設定する。

	総合指標案・名称（仮）	設定理由	参考・国のウェルビーイング指標
1	**市民の「豊かさ」実感** 「あなたはどの程度幸せと思うか（11段階）」	「豊かさ」の定義に最も直接的に対応する、**市民の総合的な「豊かさ」の実感**を測る指標	**個人幸福度** 「あなたはどの程度幸せと思うか（11段階）」
2	**地域の「豊かさ」実感** 「地域の人はどの程度幸せと思うか（11段階）」	**地域とのつながりや支え合いの中で感じる「豊かさ」の実感**を測る指標	**地域幸福度** 「地域の人はどの程度幸せと思うか（11段階）」
3	**暮らしの「豊かさ」実感** 「住んでいる地域の暮らしに満足しているか（11段階）」	**日々の暮らしやすさとして感じる「豊かさ」の実感**を測る指標	**生活満足度** 「住んでいる地域の暮らしに満足しているか（11段階）」

上記指標は、国のウェルビーイング指標を活用したものであるが、
「尼崎らしさ」を出すため、尼崎市独自の名称を設定する。

現行の総合指標との関係性　（たたき台　P.２０－２１）

現行の総合指標は、これまでの政策評価において一定の役割を果たしてきたが、ロジックモデルによる評価を構築する上では課題もあることから、新総合指標との対応関係や、後述する主要取組項目との関係性を整理したうえで、新たな総合指標への見直しを検討する。

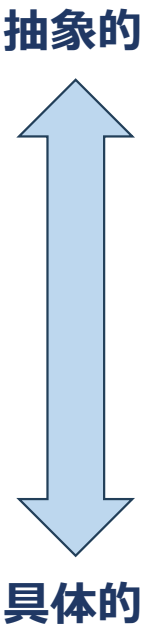
	現行の総合指標	課題	新指標案との関係性	考え方
1	ファミリー世帯の転出超過数	・住宅開発などの外的要因の影響を受けやすい ・総合指標としては、範囲が限定される	**市民の「豊かさ」実感（個人幸福度）**	・現行のファミリー世帯に特化した指標から、**全市民を対象とした総合的な「豊かさ」を測る指標に置き換える。** ・ファミリー世帯は、引き続き「主要取組項目」のテーマの一つとして、取組を推進する。
2	市民参画指数（地域推奨×活動×感謝）	・指標が複雑であり、下位指標との関連が測定しにくい	**地域の「豊かさ」実感（地域幸福度）**	・地域活動への参加意欲などを測る指標から、**地域が良好な状態にあるという市民の実感を測る指標へと転換**する。 これにより、**活動への参加が難しい方も含め、幅広い層の地域に対する実感を把握する。** ・「地域をおすすめしたいか」は、まちの魅力とも関連が強いため、引き続き「主要取組項目」の指標の一つとして進捗を測る。
3	「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合	・指標が高止まりし、政策効果が見えにくい	**暮らしの「豊かさ」実感（生活満足度）**	・交通・生活利便性といった本市の強みのほか、教育・防犯など課題に挙げられる分野も含めた、総合的な満足度を測ることで、**日々の暮らしやすさとして感じる「豊かさ」を測る。** ・また、**11段階尺度とすることで、高い水準にある場合でも変化を捉えやすくする。**

➢ **新指標案は、いずれもシンプルな主観指標であるため、下位指標との分析がしやすくなる**

総合指標と主要取組項目の役割

「総合指標」は、計画全体の最終アウトカムである「豊かさを実感できるまち」の達成状況を測るものであり、全市民を対象としたシンプルな指標とする。
一方、本市の課題や近年のまちの変化を踏まえ、施策を連携させて重点的に取り組む「主要取組項目」を設定する。

	区分	役割	指標の考え方
1	**総合指標**	計画全体の最終アウトカム「豊かさを実感できるまち」の達成状況を測る	**全市民を対象**とした、シンプルな主観指標
2	**主要取組項目**	施策を連携させて重点的に取り組むテーマの成果を測る	**テーマ別・分野横断的**な指標
3	**施策全体の代表指標**	施策ごとの成果を測る	**施策ごと**の達成状況を測る指標



「主要取組項目」の検討

（たたき台　P.56-57）

主要取組項目の見直しの考え方

主要取組項目は、複数の施策を連携させ、複数年をかけて集中的に取り組む政策テーマである。
後期計画では、前期計画からの継続性を確保しつつ、近年のまちの変化やまちづくりの方向性などのこれまでの議論を踏まえ、取組内容の更新と成果を把握する指標の設定を行う。

現行 ▷ 見直しの視点



	視点	見直しの考え方
1	**前期計画からの継続性**	前期計画からの継続性と分かりやすさから**４つの項目を維持**。
2	**取組内容の更新**	近年のまちの変化や、豊かさを実現する手段（①まちの強みを生かす、②新たな価値を生み出す、③豊かさを支える仕組み）などの**これまでの議論を踏まえて、取組内容を更新**
3	**総合指標との役割分担**	総合指標を全市民を対象とした指標とすることに伴い、ファミリー世帯などの、**特定の世帯・分野に関する視点は、主要取組項目において成果を把握**する

6　まちづくりの横断テーマ（たたき台　P.５６－５７）

➢ **「主要取組項目」の位置づけと名称を変更**

■前期計画

1 評価の仕組み

2 まちづくりの総合指標

3 施策体系

4 主要取組項目

5 施策別の取組（各論）

6 行政運営

■後期計画

1 評価の仕組み

2 まちづくりの総合指標

3 施策体系

4 施策別の取組（各論）

5 行政運営

6 主要取組項目

→（名称変更）まちづくりの横断テーマなど

６　まちづくりの横断テーマ（たたき台　Ｐ.５６－５７）

６　まちづくりの横断テーマ

- 前期計画における「主要取組項目」を、複数の施策を横断して、まちづくりを進める上で大切にする考え方としてより明確に示すため、**「まちづくりの横断テーマ」に名称変更**
- 「豊かさ」の実現に向けて、複数の施策にまたがる４つのテーマを設定

1 子ども・子育て

子ども・子育てにやさしいまちづくり

写真・挿絵・図・グラフなどを検討



子育て支援の充実と負担軽減による安心の環境づくり

子どもがいきいきと育つ環境づくりと学校教育の魅力向上

子育てと仕事を両立しやすい都市の強みを生かす

指標

子育て世帯の生活満足度	●●●％ （令和8年度）	ファミリー世帯数	●●●世帯 （令和9年4月）
子育てをしやすいまち だと感じる市民の割合	●●●％ （令和８年度）	教育が充実しているまち だと感じる市民の割合	●●●％ （令和８年度）

2 自分らしく生きる

誰もが自分らしく暮らせるまちづくり

多様性の尊重と地域のささえあい
誰もが生きがいを感じられる地域づくり
新たな交流やつながりが生まれる仕組みづくり

写真・挿絵・図・グラフなどを検討



指標

自分には良いところがあると答えた市民の割合	●●●％（令和8年度）
住民同士が支え合っていると感じる市民の割合	●●●％（令和8年年度）
高齢になっても地域で生きがいを持って暮らせると感じる市民の割合	●●●％（令和８年度）
地域の人とつながりがあると答えた市民の割合	●●●％（令和８年度）

3 経済活性

多様な人が働き、事業者が活躍するまちづくり

新たな事業・雇用の創出による地域経済の活性化

利便性と立地コストの優位性を生かした企業誘致

GXを通じた、環境と経済の好循環の実現

写真・挿絵・図・グラフなどを検討



指標

イノベーションの件数	●●●件（令和8年度）
経済的な活力のあるまちだと感じる市民の割合	●●●%（令和8年度）
市内総生産（実質GRP）	●●●億円（令和〇年度）
環境に配慮した行動に取り組んでいると答えた市民の割合	●●●%（令和８年度）

4 まちの魅力向上

まちの魅力を高め、住み続けたいまちづくり

地域の特色を生かしたエリアブランディングの推進

シビックプライドの醸成

安全・安心で快適な住環境の創出

写真・挿絵・図・グラフなどを検討



指標

住み続けたいと感じる市民の割合 ●●％（令和8年度）	尼崎市に愛着を持っていると答えた市民の割合 ●●％（令和8年度）
まちのイメージが良くなったと感じる市民の割合 ●●％（令和８年度）	まちをお勧めしたいと答えた市民の割合 ●●％（令和8年度）

意見交換②（20分程度）（たたき台P.16-21,56-57）

ここまでご説明した内容

- **総合指標**（最上位の指標）
- **まちづくりの横断テーマ（主要取組項目）**
  （施策を横断して大切にする考え方）

について、たたき台の記載内容について

ご確認・ご意見をいただきたい

意見交換③（30分程度）たたき台全体

上記以外のたたき台の記載内容について、意見交換

・各論ページ

・行政運営のページ

・全体の構成

・その他、計画全体に関する事項　など

について、たたき台の記載内容について

ご確認・ご意見をいただきたい

以　上